

更新版 P3~9

【4年生 総合的な学習の時間 ワンシーン個人

先生と一緒に



ペア



グループ



久美浜小学校は、文部科学省よりリーディングDXスクール事業の指定を受け、1人1台端末とクラウド環境を活用した効果的な教育実践の創出・モデル化を推進をしてきました。その成果物の一端を発信致します。1人1台端末の効果的な利用促進の実証実験として「できるところから少しずつ」学年毎に進めていき、中学校との接続も意識しています。

なお、この「リーディングDX事業『久美浜小学校研究実践資料』」は本校ホームページにも掲載しています。

実践の概要

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実～授業～

「端末の持ち帰りによる家庭学習の充実」

「校務の効率化、Teamsのチャット機能で情報共有の円滑化へ」

「協働的で積極的な教員研修」



取組内容	実践事例の概要	様式
①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～日々の授業で 4年生～ ・授業の学習過程を、「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ表現」で整理し進める。	B-1
①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～複線型の授業 4年生～ ・児童自ら学び方を決め、自分のペースで学習を進める。教師も新しい学び方、授業へ挑戦！	B-2
①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～班をベースに、6年生社会科～ ・学習形態は班単位。情報の整理分析にシンキングツールを活用し自分たちで学び方を選択！	B-3
①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～複線型の授業② 4年生社会科～ ・課題に向かいにくい児童も自ら情報収集しまとめ意欲的に課題に向かえるような変化も！	B-4
①	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～3・5年生等 学年間で波及～ ・一歩踏み出し見えてくるものが…社会科を中心に他学年にも広がり、できる所から挑戦へ	B-5
③	「端末の持ち帰りによる家庭学習の充実」 ～長期休業中の課題に設定～ ・発達段階、学級の実態に合わせ、授業に直結した課題提示で授業と家庭の学習をつなぐ	B-6
③④	「校務の効率化や協働的な教員研修、端末の持ち帰りによる家庭学習の充実」 ・積極的なICT活用による校内研修の創出、学校と家庭の学びの連続性の意識化	B-7
③	「校務の効率化、Teamsのチャット機能で情報共有の円滑化へ」 ・まずは教職員自身がICT活用を積極的に活用し情報伝達の便利さを広げ、確実な業務改善へ	B-8
④	「協働的で積極的な教員研修」 ・低学年から生活科等でのタブレットの使い方を段階的に指導、情報活用能力を育成	B-9
④	「協働的で積極的な教員研修」 ・学び方を身につけ、自分で学ぼうとする主体性の向上	B-10
④	「協働的で積極的な教員研修」 ・教員も新しい学習形態に慣れ、トライ＆エラーを繰り返しスキルの向上へ	B-11
④	「協働的で積極的な教員研修」 ・新アプリ（ジャムボード）を使い、研究授業における意見交流が瞬時に実現	B-12
④	「協働的で積極的な教員研修」 更新版 ・1人1台端末、複線型授業を進める上での教師の役割と授業の進め方？NO1～7	B-13～19

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

・1人1台端末、複線型授業を進める上での教師の役割と授業の進め方？NO1

できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～



教師の心構え

- ①1時間の内、全てが複線型ではない。一斉で確認すべきことは確認する。（複線型の授業にチャレンジして初めて、一斉で押さえないといけないところが見えてくる。）
- ②学習を子どもたちに任せてみて、「ここでつまづくのか！」「意外とできる！」などの発見をする。それによって、「一斉で押さえるところ。」「子どもに任せるところ。」といった教材研究の仕方が違ってくる。（これは一斉授業のままだと気付けない。）

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No2

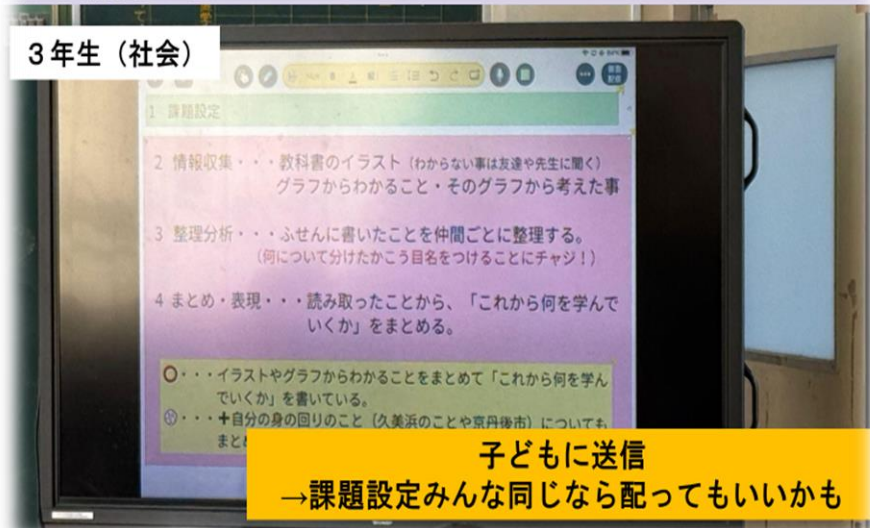
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

③共有すべき資料を、子どもたちに配る。（学習過程、授業で使う資料など）

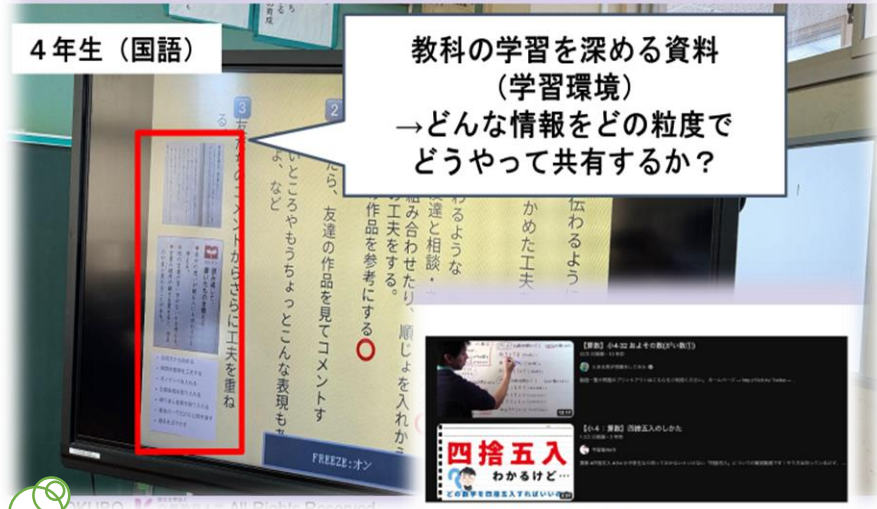
今日の授業から

3年生（社会）



今日の授業から

4年生（国語）



学習過程は、子どもたちがいつでも確認できるように、端末に配信する。また、学習に使う資料や、使えるコンテンツ（NHK for school、YouTube等の動画）を共有する。

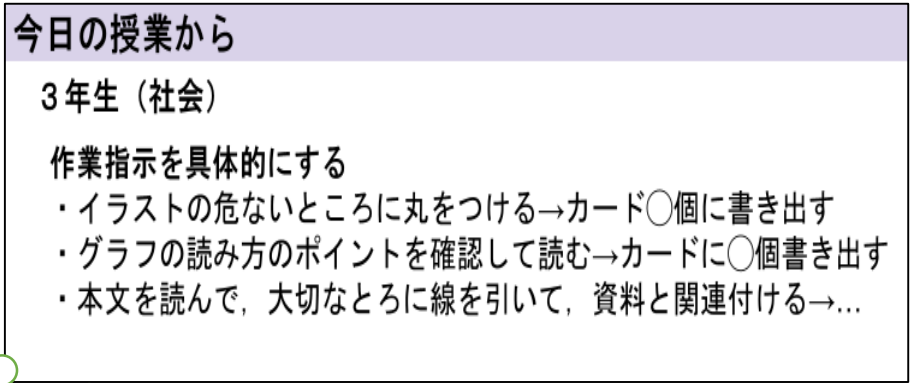
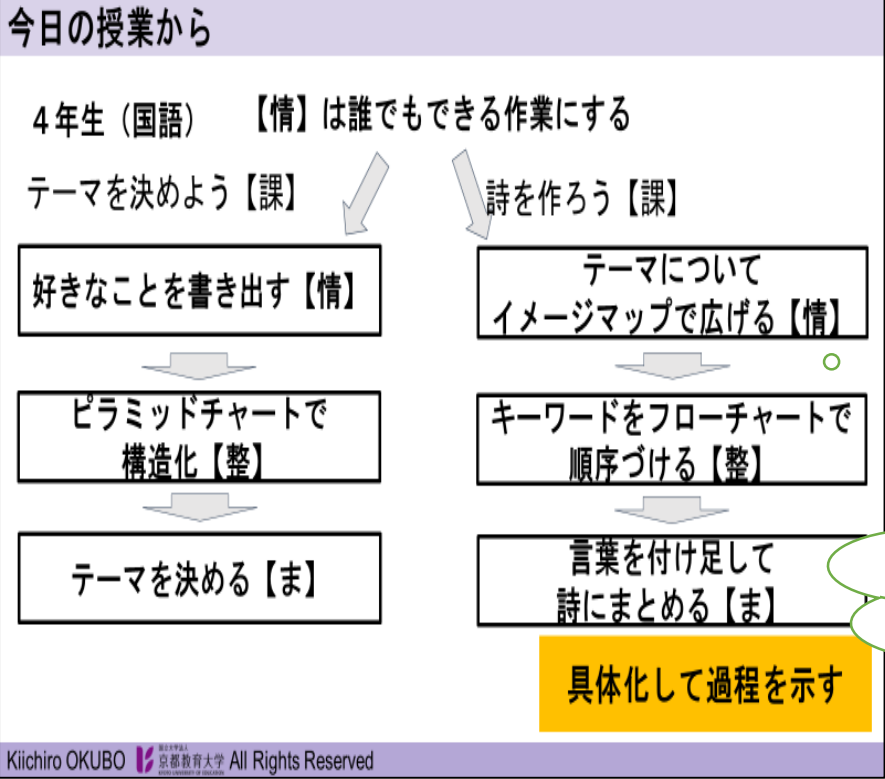
使えるものを使う

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No3
 できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

④情報収集は作業にする。（具体化して過程を示し、誰でもできるようにする。）



作業を具体的に示すことによって、誰でも学習に入りやすくなる。それが、授業のテンポアップにもつながる。

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No4
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

⑤学習の進捗状況を、教師も子どもも見取れるようにする。（クラウドの活用）
今日の授業から

4年生（算数）



学習の進捗状況を確認し、教師はタイムリーに指導支援を行う。
子どもたちは、協同する相手を見つける。

⑥振り返りの時間をとる。（内容ではなく、学習方法について振り返らせ、蓄積していく。）学習内容のふりかえりとは別に、学習方法について振り返りをする時間を5分取る。自分に合った学習方法を考えながら、**自己調整力**を育む。

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No5
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

1. 1人1台端末の低学年での活用は？

- ・ 学習過程をタブレットで配布し、いつでも確認できるようにする。
- ・ 上記のことを常習化し、必要な時に自分で情報にアクセスする習慣をつける。
- ・ 自分が撮影したい場面で、写真を撮れるようにする。

2. 1人1台端末複線型授業、本当に子どもたちの学びは深まっているの？

☆これは一番気になるところです。結局、いろいろとやっているが、それは本当に子どもたちのためになっているのか？

まずは単元テストの平均点がこれまでと比べて下がっていなければ良いのではないか！

新しいことに挑戦したとき、直ぐに成果を求めてしまいがちですが、学びが深まっているかの判断はなかなか難しい。本校では、単元テストの平均点を気にしながらも、子どもたちの学習に向かう様子や、年度末にアンケートを実施し、これまでの学習スタイルと比べて、どちらが楽しく学べるか、自分に身に付いているか等を子どもたちに直接聞いて、確かめて行けたらと考えています。

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No6
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

3. そもそも、学習が苦手な子どもたちに何ができる？

☆本校では、なかなかタイピング技術が習得できず、タブレットを使った学習についていけない子どもたちがいます。そんな子どもたちには、こういった指導・支援ができるのか。教員同士で話し合ってみました。

- ・ ローマ字入力ではなくても、フリック入力でもいいのではないか！

- ・ タブレットを使わずに、ノートやワークシートに手書きをする方法をとってもいいのではないか。（情報共有、情報収集はタブレットを使う。自分の考えの整理はノートやワークシートを使う。）

【取組内容④】協働的で積極的な教員研修

- ・ 1人1台端末、複線型授業を進めるにあたっての教師の役割と授業の進め方 No7
できることから少しずつ

一歩踏み出すことで出てきた疑問を考える。～大久保先生を招いて～

5. 次年度に向けて

今年度の成果と課題

成果

- 学習過程の共有（授業の見通し）
- クラウドでの他者参照，協働

課題

- 標準ツール（TEAMS）の活用
→ 授業の学習過程の見通しはTEAMSで毎時間共有する
- 自己調整を意識させる
→ 振り返りの蓄積（授業の終末5分は振り返り＝テンポアップ）
- 教師がクラウド上で子どもの進捗，困り感を見とれるように
→ 子ども同士も見られる環境

今年度も残り僅かとなりましたが、まずは教師側がチャレンジする気持ちを大切に、子どもたちと一緒に、新しい学びのスタイルを研究していきたいと思っています。そして、一つずつ成果を積み上げながら、これからも様々な学年や教科に研究の成果を波及させていけたらと思います。

この指導助言をもとに校内で整理し次年度へつなげていきます